

第2弾

「新型コロナウイルスとの関係での、体調不良の利用者観察項目及び対応」
2020. 5. 27

◎基本的対応

- ・体温 37.0 度以上の方は通い中止。(法人指針)
- ・ご家族と同居利用者は、なるべく毎日の検温に協力してもらう。
また、訪問時は必ず検温し入力する。37.0 度前後が 2~3 日続いている場合は、基礎疾患や内服薬、風邪症状の有無を観察し、自宅環境（ご家族に風邪症状があるか自宅を訪問する方々の状況等）を考えに含め、スタッフで話し合う。
- ・37.0 度以上の熱または、風邪症状が 2~3 日継続している場合は、主治医に相談するよう勧める。

◎観察項目

- ・風邪のような症状があるかないか。
- ・新型コロナ感染の疑いで、「37.5 度以上の熱、4 日間」の発熱症状の PCR 検査の目安は除外されたが、健康状態の観察項目としては重要である。
- ・倦怠感はないか（自覚症状が無い利用者が多い為、観察する）
- ・呼吸器症状はないか（少しの動きで息が上がる。肩で呼吸している。呼吸数が多い。軽い咳、くしゃみ等）
- ・酸素飽和度 95%未満が 1 時間以上継続している。
(場合によっては、パルスオキシメーターを訪問時の用具に追加することも)
- ・消化器症状。(食欲不振、嘔気嘔吐、下腹部痛、下痢等)
- ・水分の摂取状況及び排尿の状況、出来れば尿の色に変化がないか等も注意。
(発熱が泌尿器系疾患との関連を疑う)
- ・渡航歴のある方と接触がある。
- ・急な発熱はインフルエンザを疑う。
- ・味覚・臭覚の障害は高齢者の特性であり、認知症の障害としてある事が多い。
- ・普段と違う言動がある場合には注意をする。

◎新たな「重症化の目安」(2020. 5. 20 厚労省発表・下表は日経新聞作表)

軽症者が注意すべき重症化のサイン
(厚生労働省の資料を基に作成)

自分でチェック	<input type="checkbox"/> 表情・外見	唇が紫色になっている
	<input type="checkbox"/> 息苦しさなど	息が荒くなった(呼吸数が多くなった) 急に息苦しくなった 生活をしていて少し動くと息苦しい 胸の痛みがある 横になれない。座らないと息ができない 肩で息をしている 突然(2時間以内を目安)ゼーゼーしはじめた
	<input type="checkbox"/> 意識障害など	脈がとぶ、脈のリズムが乱れる感じがする
家族がチェック	<input type="checkbox"/> 表情・外見	顔色が明らかに悪い いつもと違う、様子がおかしい
	<input type="checkbox"/> 意識障害など	ぼんやりしている(反応が弱い) もうろうとしている(返事がない)

※高齢者の感染者は入院することが原則
※厚労省は、感染しても軽症として自然に回復するか、症状が出ない場合があるとして、左の表にある 13 項目が緊急性の高い症状として注意を払う必要があるとしている。
参考とされたい。

この「対応及び観察項目」については、小規模多機能いけぶくろの小林看護師が起案してくれ、理事長宮長が手を入れて作成しました。